

平成30年度 岐阜市青少年国際教育夢プロジェクト事業 募集要項

【募集人員】 市内在住の中学生 (16名)

【派遣日程】 平成30年8月17日(金)～24日(金)

【自己負担】 20,000円(アルバム・保険代金等)

渡航手続費用(旅券印紙代等)、事前・事後研修に参加するための交通費、旅行中の個人的な費用は別途必要です



応募の条件

- ◇明確な目的意識をもち、派遣に対して熱い思いを持って参加できること。
 - ◇チームの一員として責任ある行動がとれる者。
 - ◇現在岐阜市在住の中学生であること。
 - ◇健康で体力に自信があること。
 - ◇事前事後の研修及び説明会にすべて参加できること。
 - ◇保護者の同意が得られた者であること。
 - ◇応募時及び選考後に本人が在籍院校長に申し出ること。
 - ◇パスポートの有効期限が発行日時点で6ヶ月以上あること。
 - ◇過去の本市の海外派遣事業に参加していないこと。
- ※学校行事、部活動の大会等の日程を確認の上、応募いただきますようお願いいたします。

選考方法

- 応募書類、課題作文、面接による選考を行い、派遣生を決定します。
- ◇選考会日時** 平成30年5月12日(土)9:00～
- ◇会場** 中央青少年会館
住所: 岐阜市明徳町11番地
- ※面接等の詳細は5月初旬に応募者に通知します。
※駐車場は、中央青少年会館南側をご利用ください。
《課題作文》
面接日に800字程度の作文を書きます。作文の課題は当日示します。
* 選考結果は、5月下旬に文書にて通知します。

本事業の内容、日程等は国際情勢等諸般の事情により変更する場合があります。

※アレルギーや障がいなどで心配のある場合は、申し込みの前にご相談ください。

子どもが夢を！青少年が志を！市民みんなが生きるよるこびを！ (岐阜市教育委員会)

おもな行程

- 1日目：中部国際空港⇒北京經由ウランバートルへ
2日目
3日目
4日目
5日目
6日目
7日目
8日目：ウランバートル⇒北京經由⇒中部国際空港へ
- 一般的な観光ではなく、人との交流、自然体験を中心とした内容・日程です。
・学校や市場、民家などの訪問と交流
・モンゴルを代表する大自然やゲルの体験等

事前事後研修

- 【派遣生・保護者事前説明会】**
5月26日(土) 13:00～17:00
(中央青少年会館)
- 研修①：英会話研修・役割分担・先輩の話他**
6月24日(日) 13:00～17:00 (中央青少年会館)
- 研修②：モンゴルの自然や文化、モンゴル語研修他**
モンゴルの人との交流
7月8日(日) 8:00～19:30 (名古屋)
※交通費等は個人負担となります。
- 研修③：事前研修会**
7月25日(水) 13:00～17:00
(中央青少年会館)
- 【派遣生・保護者最終説明会】**
8月 5日(日) 13:00～17:00
(中央青少年会館)
- 研修④：海外渡航の準備と心得**
8月5日(日) 13:00～17:00 (中央青少年会館)
- 研修⑤：現地での体験をふりかえって**
9月1日(土) 13:00～17:00 (中央青少年会館)
- 研修⑥：体験報告会**
10月21日(日) 10:00～12:15 (メディアコスモス)
※10月13日(土)午前に体験報告会リハーサルを行います。

* 研修の内容は変更する場合があります。
* 上記の保護者説明会には、保護者の参加が必要です。

申し込み・問い合わせ先

参加申込書に、必要事項を記入し、期間内に下記まで送付するか直接持参してください。

《申込書の入手方法》

- * 各学校にお預けしてあります。
- * 「岐阜市ホームページ」トップの「募集情報」からダウンロードできます。

《募集期間》

平成30年4月9日(月)～4月26日(木)

※最終日17時必着

《あて先・問い合わせ先》

〒500-8720 岐阜市神田町1丁目11番地
岐阜市教育委員会 青少年教育課内
「夢プロジェクト事業実行委員会」事務局宛
Tel.(058)214-2367

29年度事業「夢inタイランド」に参加して

私の夢が今回の研修を通して見つかった。それは『助産師になることだ。助産師になりたいと思ったことは初めてだ。この夢をもったきっかけは、幸せについて考えたことだ。この夢をもったきっかけは、幸せについて考えたことだ。私はタイの方々から多くの笑顔をプレゼントしてもらって幸せだった。自然と心が温かくなった。だから私は助産師になって生まれてきてくれた子にとって、一番初めにそのお母さんと最高の笑顔をプレゼントできる人になりたい。そして温かく迎え入れてあげたいと思った。(仁科七那さん 現高校1年)

私はこの村に来るまでは、不便な山奥に住んでいる人は気の毒な不幸な人で、便利な都会に住んでいる人は恵まれていて幸せな人だと思っていた。村の人も都会に来て住めば、もっと幸せな暮らしができてと思っていた。しかし、私の考えは間違っていた。ここには、都会にある高価なものや便利なものはないけれど、素朴で丁寧な手作りの暮らしがあった。村の人たちから、たくさんの喜びと幸せ、そして誇りを感じることができた。

(伊藤桃子さん 現高校1年)